

ケアセンターけやき

症 例 概 要 利用者:女性 要介護5

利用期間:令和4年4月～現在

既往歴:脳梗塞、高次機能障害、失語症、慢性うっ血性心不全、2型糖尿病、胃瘻造設

経 過

脳梗塞後、高次機能障害、失語症、摂食障害、右片麻痺に対してのリハビリ目的で竹川病院に入院。経口摂取は少量のゼリー程度で、生命維持に必要な栄養や水分を摂ることができず、胃瘻造設となる。そのため、以前、暮らしてたサ高住に戻るのには難しく、ご家族の希望でケアセンターけやきに入所となる。入所後は3食経腸栄養だったが、多職種でアプローチを重ねることで、ご本人の食事への意欲を高め、経口摂取ができるようになった事例。

内 容

入所した当初は周りに興味を示さず、覚醒にムラがあり、ウトウト居眠りをしている事が多くあった。失語症のため、コミュニケーションは表情や動作でyes・noを確認、促せば単語を発するのみ。栄養は入院中と同様の3食経腸栄養で、経口からは少量のゼリーを摂取。しかし、他のご利用者が食事や飲み物を召し上がったりのを、羨ましそうに見ている様子うかがえた。

けやき訪問看護STに、嚥下機能の評価とトロミの調整や食事の姿勢のアドバイスをうけ、ミキサー粥を1食から開始。食べ始めは意欲はあるものの、食事の最中に眠ってしまうことがあり。そこで、日中の生活リズムづくりとして、職員や他のご利用者と同様に体操をしたり、ご本人の好きな歌をタブレットで流して歌ったり、洗濯物量や新聞紙の整理など役割をもって生活することで、起きている時間が増え活動量の増加を促す事ができ、食事の際に眠ってしまう事が無くなった。また、おやつ作りとして、ご本人の好きなプリンと一緒に作成すると、真剣に取り組まれ、「美味しい」「食べたい」とご自分から言葉を発された。食事への意欲が高まり、ムース食の副食を開始し、3食経口から摂取できるようになった。2型糖尿病があるため、施設看護師が竹川病院医師と相談しながら経腸栄養剤を減量。血糖コントロールを行い、インスリン注射から経口血糖降下薬に変更となった。

経口からの食事を3食に増やとますます活発になり、車椅子を自走しフロアを散歩されるようになった。また、発語も増え、最初は頷いたり単語を発する程度だったが、今では職員や、他のご利用者と同様に会話

するようになり、笑顔を輝かせている姿が多く見られるようになった。

食事を召し上がりたいとご本人が強く希望し、チームで検討、アプローチを続ける事で、「美味しい」と自ら言葉を発し、笑顔で食事を楽しむ事ができるようになった事はキラキラ介護賞に値するとし推薦させていただきます。